

今年も  
メダリス  
ト  
きたる。  
。

## パラリンピックの出かた・見かた・関わりかた -第二弾：大会の見所を知って応援に行こう！-

2019年11月20日（水） 16:20～18:00

於：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパスSA207  
中継：小平キャンパス 第1会議室

参加費無料  
要事前申し込み



### シンポジスト一覧

- (1)八尋 大氏(コーチ)
- (2)小山 恭輔氏(日鉄 P&E)
- (3)花岡 恵梨香氏  
(津田塾大学大学院)
- (4)川辺 多恵氏(東京ラッコ)
- (5)川原 溪青氏(国土舘大学)
- (6)富樫 航太郎氏(国土舘大学)
- (7)齋藤 元希氏(国土舘大学)
- (8)清水 滉太氏(国土舘大学)

プロフィール情報の詳細は  
裏面をご覧ください。

パラリンピック出場を目指し、  
八尋コーチと共に練習に励んでいる選手の皆様に  
・パラ水泳の競技ルールにまつわるお話  
・パラリンピックまでの道のり  
・パラ水泳の魅力  
・11月23日&24日の日本選手権の見所を伺います。

「パラ水泳って、ルールは違うのかな？」  
「どうやったら、パラリンピックに出れるのだろう？」  
「日本のパラ水泳は世界でどのくらい強いのか？」  
「応援するときの楽しみ方って？」  
そんな素朴な疑問も、シンポジウムで学べます！

要事前申し込みの講演会となります。お申し込みは、右上のQRコードからご記入を頂くか  
【講演会申し込み】の件名で、本文に氏名・希望会場・必要な配慮の有無の記載を頂き  
inclusive\_events@tsuda.ac.jpまでお願いいたします。申込期限：11月19日12時まで。

# シンポジストのご紹介



## ◆八尋 大 (やひろ だい)

ロンドンパラリンピック大会 日本代表コーチ  
日本身体障がい者水泳連盟 技術委員  
学校法人津田塾大学インクルーシブ教育支援室アドバイザー  
オーストラリア体育大学スポーツ教育学科卒  
早稲田大学院スポーツ科学研究科社会人修士卒業  
2002年にオーストラリア留学を終えて、日本にてフリーランス水泳コーチ業を始める。  
2003年にパラスイマーと出会い、パラ水泳指導に携わる。  
指導していた選手たちが、パラリンピックに出場（アテネ、北京、ロンドン、リオ）。  
その中の一人、小山恭輔選手が北京で銀メダル、ロンドンで銅メダルを獲得している。



## ◆小山 恭輔 (おやま きょうすけ)

2008年北京パラリンピック日本代表 50mバタフライ(S6)で銀メダル獲得  
2012年ロンドンパラリンピック日本代表 50mバタフライ(S6)で銅メダル獲得  
2016年リオパラリンピック日本代表 50mバタフライ(S6)で5位入賞  
日鉄P&E株式会社所属

中学2年生の時、脳梗塞を患い右半身麻痺の障害を負う。高校から本格的に競泳を再開。パラ水泳大会に出場後、日本代表入り。左手左足だけでバタフライを泳ぎ、パラリンピックに3度出場。初出場の北京大会で銀メダル。その後、燃え尽き症候群に悩みながらも、ロンドンパラリンピックでは、銅メダルを獲得。2018年にルールが変わりクラスがS6からS7に変更してしまったが、現在も、東京大会を目指して日々トレーニングに励んでいる。

## ◆花岡恵梨香 (はなおか えりか)

2017年ジャパンパラ 50mバタフライS6優勝  
2018年全国障害者スポーツ大会東京代表25mバタフライ50m自由形優勝  
2019年ジャパンパラ 100mバタフライ400m自由形S8 優勝  
津田塾大学大学院 理学研究科 情報科学専攻 後期博士課程 在籍中

修士2年の夏、体調不良になり、病院に行ったら脊髄空洞症を伴うキアリ奇形と診断された。術後、四肢麻痺となる。2016年冬にリハビリ目的で水泳を始める。2017年から競技としてパラ水泳を始め、日々トレーニングに励む。2018年江戸川区体育優秀選手、2018年江戸川区スポーツ栄誉賞 受賞。



## ◆川辺 多恵 (かわべ たえ)

2017年全国障害者スポーツ大会東京都代表 25m、50m自由形優勝  
2018年パラ水泳選手権 100m自由形優勝  
2019年パラ水泳選手権 50m、100m自由形優勝  
2019年新東京歯科衛生士学校卒業(国家資格：歯科衛生士取得)

小学校入学前に姉の影響でスイミングスクールに通い始めるも、中学校で吹奏楽部に入部した事をきっかけに退会。専門学校に進学した頃、自分にしかできない事は何か真剣に考えた末、水泳を再開する事を決意。実は、以前から母親にパラリンピックについて聞かされていたものの全く興味がなく、東京でパラリンピックが開催する事が決まった時も特に興味はなかった。現在、パラリンピック東京大会出場を目指して日々トレーニング中。



## ◆川原溪青 (かわはら けいせい)

400m自由形(S10)、100m平泳ぎ(SB9)日本記録保持者 [強化指定：育成S]  
【日本選手権参加種目】50m平泳ぎ、100m自由形

2019年1月に交通事故で足を切断。事故前より国士舘大学で続けていた水泳をもう一度すべく、パラ選手としての復帰を目指し、退院後、同年6月よりパラ水泳を始める。9月のジャパンパラでは、400m自由形、100m平泳ぎで日本記録を更新し順調に記録を伸ばしている。国士舘大学で練習に励みながら、東京パラリンピックを目指し努力している。



## ◆富樫 航太郎 (とがし こうたろう)

2013年マレーシアアジアパラユース大会 100m平泳ぎ(SB6)優勝  
2014年アジアパラ大会 100m(SB6)平泳ぎ4位  
2018年ジャパンパラ大会 400m自由形、100m背泳ぎ(S6)優勝  
国士舘大学理工学部理工学科3年

胎児の時に手足が短縮するのが特徴的な軟骨無形成症と診断された。生後6ヶ月時から水泳療養を始め、小学校6年生から本格的にパラ水泳を始める。中学3年の時にアジアユースパラ大会に出場。高校1年生の時にアジアパラ大会に出場し日本代表入りをした。国士舘大学に入学し、水泳部に入部。健常者の選手たちと日々トレーニングを行い、東京で行われるパラリンピックを目指している。

## ◆齊藤 元希 (さいとう げんき)

2018年パンパシフィック日本代表 400m個人メドレー(SM13) アジア記録保持者 [強化指定：強化B]  
【日本選手権参加種目】100自由形、100mバタフライ、200m個人メドレー

小学校低学年のときに、障害が見つかる。医者からは、視野の中心部から見えなくなる進行性の黄斑変性症と診断される。その症状は、徐々に進行し現在の視力はメガネをかけても0.07。小さい頃から体を動かすことが好きで幼少期からやっていた水泳は高校三年までつづけ引退した。大学にはいってからパラへの転向を決め違うステージで現役復帰した。

## ◆清水 滉太 (しみず こうた)

2017年アジアユース日本代表 [強化指定：育成A]  
【日本選手権参加種目】50m自由形、50mバタフライ、200m自由形

2010年10歳の時に障害が発症。小さい頃から空手と水泳をやっており、中学二年生の時には健常者に混じり空手で全国大会で優勝。しかし、視力の低下に伴い学校の先生の勧めでパラ水泳をやることになった。専門種目は自由形。現在は国士舘大学の一年生として競技に取り組んでいる。

日本選手権  
応援ツアー  
11月24日  
開催予定!